

## FY2023.6 3Q決算発表 FAQ

### Marketplace

**Q1.** 日本国内においてもインフレの影響は出ているのか？

A1. 現時点での影響について断定的なことは言えないが、一次流通において様々な商品の値上げが相次ぐことで、その影響が二次流通に波及する可能性もある。例えば、一次流通の値段が上がることで、二次流通における消費者の購買意欲促進に繋がる効果も期待できる一方、USのようにインフレが急激に進み消費者が生活必需品への支出を優先させることで二次流通での購入頻度が鈍化する可能性も考えられる。引き続き状況を注視していく。

### Fintech

**Q2.** 債権残高が増加傾向だが、資金需要の増加に対する方針は？

A2. メルペイにおいて、「メルペイスマート払い（翌月払い・定額払い）」の債権の流動化を行っており、FY2023.6 2Qには定額払い債権流動化の一部に対する外部格付けを取得し販路の拡大を行う等、健全な事業成長に向けて資金面における検討・取り組みを推進している。今後も債権の増加に合わせて流動化の枠組みを拡大していく方針である。

またグループとしても、従来よりCB発行や金融機関からの借入れを行っており、手元流動性については十分な規模を確保できていると考えている。今後も、長期的な資金調達の安定性確保に向けて、調達手法の多様化、年限の長期化など、様々な可能性を社内で検討・実行していく。

**Q3.** 暗号資産業を開始したが、暗号資産の価格変動に伴う財務リスクはあるか？

A3. 株式会社メルコインが提供するCryptoサービスは、ユーザからの注文を受けてリクイディティプロバイダーから調達する方式を採用しており、基本的に暗号資産の自己保有がほぼ必要ないビジネスモデルである。そのため、暗号資産の価格変動による財務影響は極めて軽微である。

### US

**Q4.** GMVのマイナス成長が継続している中で赤字幅が縮小したが、今後の投資方針について教えてほしい。

A4. 想定を上回るインフレの長期化など、不透明な事業環境が継続していることによってGMVはマイナス成長となっている。当面は厳しい事業環境が続くことが予想されるため、短期的には、筋肉質な経営を推進していく方針である。

一方、中長期的な視点で見ると、米国の経済規模は日本の数倍あり、様々な市場予測でも二次流通は大きく成長する分野とされており、当社の成長余地も大きいと考えている。そのため、中長期的な成長に資する投資は規律の範囲で行なっていく方針である。

### 免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社がその実現を約束する趣旨のものではありません。

以上